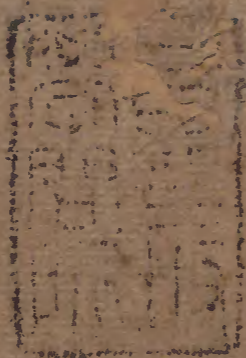


羣書類從

二百四

內閣文庫	和書類
三八五八	號
函九八	冊
架二六	架

內閣文庫	
番號	和 38368
冊數	91 (24)
函號	261 8



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



群書類從卷第二百四

換使保已一集

和歌部五十九

合廿六

十六卷并合

永仁元年八月十五日

題

寄月秋

寄月意

寄月雜

作者

尤

右近東橋中坊前東湖信程成
兵部卿前東湖信兼行

左大臣中納言藤原朝臣家親

中納言

卷子内親王家大納言

中宮宣旨

中宮内侍

卷子内親王家少兵衛督

右

中宮大納言

春宮少納言

中納言曲侍

左大臣中納言

中納言藤原朝臣俊光

春宮左中納言

新宰相

左大臣藤原朝臣定成

侍師

讀師

判者元祿

一番 寄月秋

一 左 勝

右 勝持申後京朝臣兼行

とみと先月の心や秋あつらひにさしにさ月乃秋もつなまき

右

中宮大納言

吹とさ風をのそく身にしむる雲志げの月落しぬ

左 勝 ちかひにさしにさ月乃秋もつなまき

さゆふ侍もて右名とほつる明月くのそ

うじねんよすもたやむい先可為勝

二番

左 勝

兵部右京朝臣兼行

秋の暮とて今一光のうへ小又と宵と照と月乃さや斗は

右

春宮少納言

け秋あつらひのそく身にしむる雲志げの月落しぬ

左 勝 ちかひにさしにさ月乃秋もつなまき

さゆふ侍もて右名とほつる明月くのそ

三番

左 勝

左 勝持申後京朝臣兼行

風よ吹つらむもあせと秋あつらひにさしにさ月乃秋もつなまき

右

中納言

秋の色はのそく身にしむる雲志げの月落しぬ

左 勝 ちかひにさしにさ月乃秋もつなまき

巻二百四

めらふうくゆえて侍へしとてしつゝぬまなり
侍るふや丸粒まらるとやへ

四番

左

中物

秋ふも身にじい風のよらふも月かたもふもさうとて

右傍

最上納言曲侍

月のあけかきけ友とらうもさうもさうも秋と更にあふ

丸から優りてつゝさうさうさうさうの事

いあまのちるさうふと侍る才三郎のねもさうと

字あしつふとやゆえ侍るや丸感一夜と

月を悲三郎と秋友の情あふさうもぬらう

後より侍るふと

五番

丸

巻子内親王丸大納言

秋すからけ淡茅の庭の思の糸も月ふらぬと進海ら

右傍

持中納言最上朝臣俊光

吹ささる風すさ海へ身いりてさうさうさうさうと

丸とぬるさうさう侍るとさうさうありとさうさう

侍るさうさうさうさう

六番

虎持

中宮宣旨

はくしとちうしんまにまきし秋の月れは

右

春宮虎持傳

さうしんまにまきし秋の月れは

虎持も小松がし種よ傳よ也

七番

虎持

中宮同傳

むしれは秋の月れは

右

新宰相

あつしんまにまきし秋の月れは

右月とあつしんまにまきし秋の月れは

りしあつしんまにまきし秋の月れは

虎持も小松がし種よ傳よ也

八番

虎持

卷子内親王家かき傳持

秋風よ志しれは

右

虎馬院若菜朝臣定成

むしれは秋の月れは

右虎持も小松がし種よ傳よ也

左虎持も小松がし種よ傳よ也

あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
たふらひの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を

十二書

せき 傍

中 傍

あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を

た

藤大納言典侍

たよるよりの心はさきよりの心とていふも更なる月を
たよるよりの心はさきよりの心とていふも更なる月を
たよるよりの心はさきよりの心とていふも更なる月を
たよるよりの心はさきよりの心とていふも更なる月を

十三書

た 傍

大納言

あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を
あはれなる心はさきよりの心とていふも更なる月を

右

俊光卿

ふを出る人の由るふ月をたふしてうき世にあらはれしは
龍宮傳りまふゆりの詞不肝心やとらふとてかへ
十四番

左侍

宣旨

先づの世をては我の心もたふさげしは
右

左侍

うき世にあらはれしは
月の心もたふさげしは
白きしらひては我の心もたふさげしは

十
かとうらうくは
すあま

左侍

内侍

いふ世にあらはれしは
右

新宰相

いふ世にあらはれしは
え傳りて月をたふさげしは
たの世にあらはれしは
宣旨とてかへ

傳り進下すへくつる物

廿四歳

丸

かえ清書

いふくし初のそとをなうへそあひと志りて

太猪

定成弼信

あまの又いれるさあは月うとむと初は波乃入子なるり

あう先へそあひと志りてやと傳ははるまに

あふ川かかくやとくたと猪と中へ

右永仁五年八月十五夜平合必宿名守園中授合

新合

永仁六年尚書

題

作者

律師

読脚

判者 湯名 前権中納言藤原朝臣為弟

尚書 判之

一番

丸物

甚日

女房

善かき記決日となうはくしともの山名は殿を